

【事例 1】余裕教室活用型（3 教室分を 2 学級分の空間として利用）

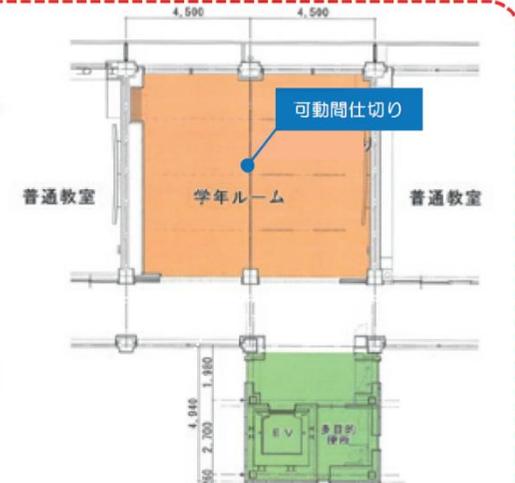
富山県南砺市立井波中学校

生徒数の減少により生じた余裕教室を多目的に利用できる「学年ルーム」として整備。可動間仕切りにより 2 分割することも可能。

Before



After



余裕教室を「学年ルーム」に改修し、多目的に使用。可動間仕切りでスペースを区切り少人数指導にも活用



学年ルーム

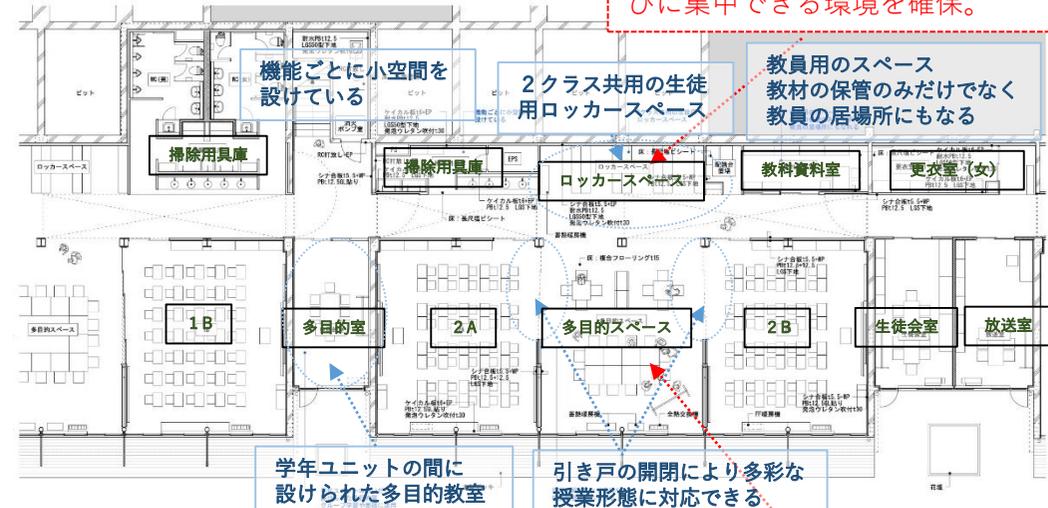


教室内の可動間仕切りでスペースを区切り少人数学習の場としても使用

【参考】 岩手県陸前高田市立高田東中学校

(※新築であるが、空間デザインとしての参考例)

2つの教室の間に多目的スペースを配置するとともに、ロッカーや掃除用器具を廊下側へ配置して、ゆとりのある教室空間を確保。



ロッカーや掃除用器具は廊下側へ配置し、教室内はすっきりとし学びに集中できる環境を確保。

学年ユニットの間に設けられた多目的教室グループ活動や面談に活用

引き戸の開閉により多彩な授業形態に対応できる

2つの教室の間に多目的スペースがあり、両側の教室と一部可動式の間仕切りでつながっている。



教室に隣接した多目的スペース



普通教室：右側壁面の引き戸を開くと多目的スペースにつながる

【事例2】改修＋一部増築型（改修に合わせた一部増築により不足するスペースを確保）

① 和歌山県新宮市立王子ヶ浜小学校

（改修に合わせて教室の一部、図書館を増築）

図書館を学校の中心に置きたい、廊下が暗いなど既存施設の課題について、教員や地域住民が集まって話し合い、改修と増築による整備計画に反映。



図書館（整備前）



図書館



教室（整備前）

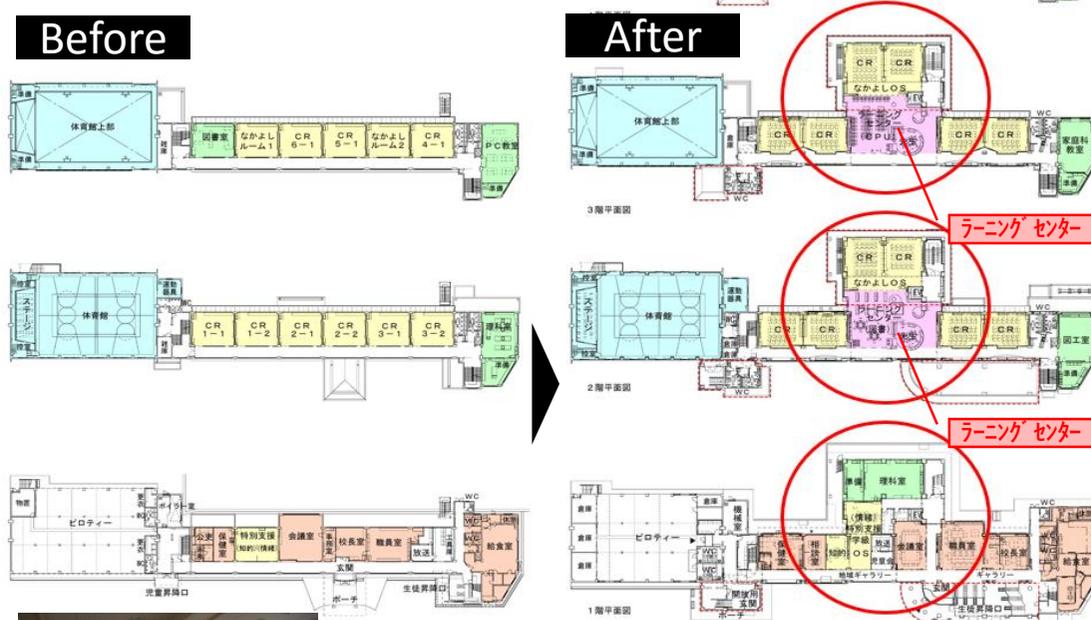


教室

② 富山県舟橋村立舟橋小学校

（改修により各階中央にラーニングセンターを配置し、2教室分を増築）

画一的・均質的な教室空間から、改修と一部増築により、ラーニングセンターを中心に教室群を配置し、縦の学年のつながりを持たせた空間構成に転換。



教室（整備前）



廊下



廊下（整備前）



ラーニングセンター

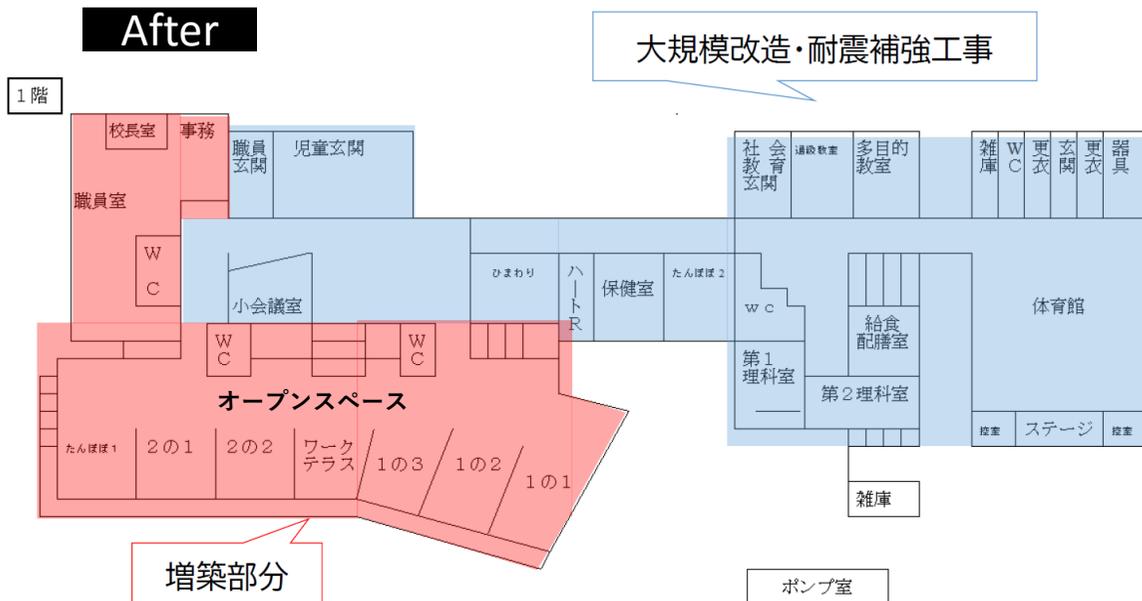
教室

【事例2】改修＋一部増築型（改修に合わせた一部増築により不足するスペースを確保）

③ 富山県滑川市立西部小学校

（既存校舎の耐震補強・改修に合わせて普通教室棟を増築）

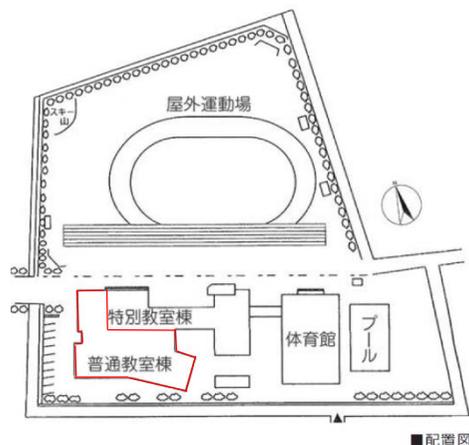
改修に合わせて、図書室や教室、教室と連続したオープンスペースのある普通教室棟を増築。オープンスペースは、可動家具や可動間仕切りにより空間を区切り、多様な活動に応じて多目的に利用することが可能。



オープンスペース（高学年）：可動家具や可動間仕切りで空間を区切り多目的に利用



図書室（増築部2階）：改修によりパソコンホールを連続させて情報環境を充実、3階からのアプローチも可能



校舎外観：屋外運動場からの外観（右側増築部）



ワークテラス（増築部1階）：地域の方による読み聞かせの場としても活用



【事例3】家具配置工夫型 (家具の配置の工夫による教室と連続した空間の活用)

京都教育大学附属桃山小学校

普通教室と多目的スペースの仕切りを、可動式のホワイトボード付きロッカーとし、教室の連続した空間としてフレキシブルに利用。



普通教室と連続した多目的スペース
(小学校高学年エリア)



窓側に設置されたカウンター



ホワイトボード付きロッカーを移動し教室を拡張して利用

活用状況

- ▶約10年にわたり1人1台端末環境を実現、空間や家具を工夫し、学習に応じて教師が空間をマネジメントする。
- ▶可動式のホワイトボード付きロッカーや窓際のカウンター設置により、教室の内外に学びの場が広がる。
- ▶協働的な学びへの対応として、教室机の高さは統一し、いすで高さ調整している。

【事例4】特別教室コンバージョン型 (教科に捉われない創造的な学びの空間に転換)

筑波大学附属小学校「未来の教室（現：ICTルーム）」

複数の壁面を活用して多正面のある「未来の教室」としてコンバージョンし、多様な学びに対応できる空間を創出。



「未来の教室」

活用状況

1人1台タブレットPCを使用し、各教科の学習及び総合学習におけるICT活用の可能性を探るとともに、教員を対象に授業の提案・ワークショップ・シンポジウム等を実施。



空間を分割することが可能

改修経緯

本校の使命である、先導的教育拠点・教師教育拠点の一環として、発信型の総合活動及び教科教育を行うこととした。そのため、ICTの活用を目的として、児童用タブレットPC・プロジェクタなどの整備をした。



総合教室(改修前)